

ひとしずくの森

秋の号

発行・編集
山形県源流の森
飯豊町須郷 669-3

第121回森林の学校開催



えっ！だれのウンチ？

十月二二日は紅葉始めた森の様子を参加者の皆さんに知ってもらいたいと、「秋は森の魔法使い」をテーマに森林の学校を開催しました。
最初に森に出掛けたみんなはセンター裏に巨大なクマの

落とし物を発見してビックリ！

その後、インタープリターから様々な植物や動物の話を聞きながら森の中を探索し、草木で遊びながらドングリや色様々な落ち葉を拾って午後のクラフトに思いを馳せました。また、シイタケの菌打ちにも挑戦。来年キノコが出るか楽しみです。

昼食後のクラフトでは準備されたたくさん材料やインタープリターの丁寧な指導で、個性あふれる作品ができました。工夫したところなどを話し合いました。保護者の方からも「久しぶりに親子でのんびりできた」「子供の発想に驚いた」「また参加したい」とたくさん感想をいただけた行事でした。当所はハロウィンに寄せた企画など

十月八日(日)、第六回目となる『森林(もり)のようちえん』を開催しました。数日雨の日が続いていましたが、森林のようちえん当日だけは素晴らしい秋晴れに恵まれ、外で遊ぶには絶好の一日となりました。

初めは「秋の森のビンゴ」ビンゴゲームを楽しみながら園内をゆっくり散策です。綺麗に紅葉した葉っぱやくるみの実、どんぐりなど自然の宝物も拾い集めました。途中、アナグマさんが現れるサプライズもあり、参加者一同アナグマさんの愛くるしい姿に盛り上がりました。

第六回森林のようちえん

遊び疲れてしまう子どもがいたので、今回の参加者はみんな疲れ知らず。終わりの時間まで目いっぱい遊具で楽しめました。今回も山形県森林インストラクター会と源流の森インタープリターの皆さんに丁寧にご指導いた

散策のあとは体を思い切り動かして遊ぶ「森のようちえん」です。カゴ

ネットのぼり、スラックライン、一本ブランコ、ハンモックの四種類を用意しました。今までは時間後半になると

所長の無茶振りをなんとか形にしてくれたインタープリターの皆さんの努力に改めて感謝申し上げます。(イッシー)



楽しい作品ができました。

森の収穫祭開催

十一月五日は森の収穫祭を開催しました。これは紅葉の森の恵みをいただきながら中津川の伝統文化にも触れようという催しです。親子十九名のお客様と楽しい時間を過ごしました。

最初、伝統の白炭造りを見学した後、紅葉の森に分け入り落ち葉やドングリを探しました。雨上がりでしたが橋本さんらの巧みな案内で事故もなく

だきましてありがとうございました。大変お疲れさまでした。

(伊藤)



眺海の森さんが来てくれました！

十月二五日、はるばる眺海の森から八名の方が視察研修にいらっしゃいました。県内四県民の森の連携協定に基づく活動で、当方からは事務局と奥山源流の森インタープリターシヨン協会会長はじめ八名が参加しました。最初、研修室で源流の森の管理運営について説明させていただいた後、互いの施設の課題等について率直な意見交換を行いました。



こんな炭できちゃった！

観察できました。その後、野外シエルターでドングリコマを作って遊びました。

昼食休憩時は中津川の民話の紙芝居を上演。午後は保科さんからいただいたお芋と栗を焼きながらマツカサやハスの実で炭焼き体験。焼きあがるまで拾ってきた落ち葉でカラフルなエコバックを作りました。さらに仲山さんが伐ってくれたホダ木にシイタケとナメコの菌を打ったところには、焼き芋焼き栗と花炭も焼き上がり、みんなお土産一杯、笑顔いっぱいの日でした。

六日間も炭窯を担当された鈴木一義さん、神尾さんをはじめ、班付きの指導や各種体験コーナーを担当されたインタープリターの皆さんに厚くお礼申し上げます。

(イッシー)



その後、奥山会長の案内で園内各施設を視察。同じ県民の森の仲間同士、うちとけて様々な話で友情を深めることができました。最後に互いの施設での健闘を願いつつ、今後も密接に連携していくこととなりました。(イッシー)

所長イッシーのネホダレ

また悩ましい時期がやってきました。今年度の成果を取り纏め、来年度の事業を組み立てるのですが、お客様に喜んでもらえたのか、県民にアピールできたのか、アンケートや効果分析資料を見返す日々です。

全ては数字(利用者数)です。数字が無ければ修繕費さえ取れませんが、数字を求めて受けの悪い行事を組むと個性が死に、独自性や内容の深さを求めると人は来ない。そのジレンマの中で悶えるのは各県民の森共通の悩みではないでしょうか？訪問された眺海の森の皆さんと事業企画や実施体制について語り合えたのは貴重な時間でした。

今年度上手くできた事、不足していた事、見直すべき事を振り返り、来年度も地域内外の様々な人々と連携・協力し、楽しくて深い行事を実施していきたいと考えています。

※ネホダレは置賜弁で寝言のこと